

## 知的障がいのある方のサポート① 「安否確認・避難誘導」の場面より

私達が暮らす街には、知的障がいのある方も一緒に住んでいます。災害が起きた時、みんなで身の安全を守り、安全な場所に避難するために、知的障がいのある方にどんなサポートが必要か一緒に考えてみましょう

下記イラストは「**発災後に行う安否確認、避難誘導の場面**」です。①～④の方は、どんなことに困っているのだろう？



### **チェック** 知的障がいのある方の特徴

- ・緊張や不安、急な出来事に動揺し、混乱してしまうことがあります
- ・コミュニケーションを取るのが苦手なこともあり、自分の気持ちを具体的に伝えることが困難なことがあります
- ・言葉かけや周囲の環境変化に対する理解、判断の認識、危険に対する認識が難しい場合があります

## ポイント

# 基本事項 「声をかけるときの配慮」

- わかりやすく、ゆっくりと「簡単な言葉で、具体的に」  
例：怪我はないですか？⇒「痛いところがありますか？」  
荷物をもって今から逃げるよ⇒「リュックを持って、体育館に行くよ」  
危ないから道路に飛び出さないで⇒「私の横を歩いてね」
- 否定言語は使わず、出来る限り「肯定的な表現で」  
例：走ったらダメ！⇒「ゆっくり歩こうね」  
触ったらダメ！⇒「触らないでね」

## ポイントを踏まえて、①～④の方に対して どんな対応が必要か考えてみよう



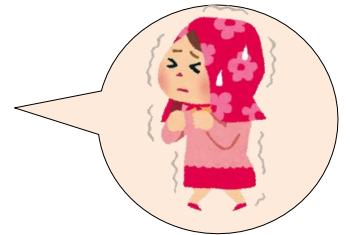
### ①左手に何かが当たり、怪我をしているようです

- 痛みを感じているものの、その思いをうまく伝えられず（助けを求められず）に痛みを我慢し、困っているようです。
- 怪我や痛みを具体的に伝えられない方もいます。痛みに鈍感な方もいます。安否確認、避難のサポートをする方は、怪我をしていないかどうか、よく見てください。

### ②パニックの状態になっているようです

• 特徴にも記載があるように、急な出来事に動揺し、「どうしていいかわからず」大きく混乱（パニック）することで大きな声を出したり、自傷行動（自分の頭を叩く等）などが生じることがあります。

• **パニックは相手を攻撃しようとするものでなく**、言いようのない「不安な気持ち」の表現です。気持ちの整理、言葉かけや周囲の環境変化に対する理解、整理が出来ない状況ですので、避難誘導などを急かさず、まずは出来る限り一人になれる場所で、落ち着くまで見守ってください。



### ③声がかかっても、避難が出来ないようです

- 声をかけても反応しない方もいます。反応がなかったとしても、再確認をしてみてください（避難行動要支援者名簿等も活用してください）。
- ご家族が居る場合、ご家族のサポートも得ながら一緒に行動を開始すると、ご本人の特徴に合った声かけ、誘導方法に近づくことも出来ます。

### ④危険の認識が困難で、身の危険が生じています

• 危険の認識が難しい場合があります。具体的にどう行動すればOKなのか、ゆっくり説明してください。

• 一人で居る場合、身分の分かるもの、支援の方法、緊急連絡先、服薬の状況が記載されたものを持参している場合もあります（リュックに入っている、リュックのファスナーに付いているなど）。安全な場所へ誘導するとともに、関係者への連絡を出来る限りとってください。



## 知的障がいのある方のサポート② 「避難所での生活場面」より

災害が起きた時、地域の避難所で共同生活をする場合があります。同じ地域に住む仲間として、知的障がいのある方も避難しますが、避難所ではどんなサポートが必要か、一緒に考えてみましょう

①～③の方は、どんなことに困っているのだろう？



### チェック☑ 知的障がいのある方の特徴

- ・緊張や不安、急な出来事に動揺し、混乱してしまうことがあります
- ・コミュニケーションを取るのが苦手なこともあり、自分の気持ちを具体的に伝えることが困難なことがあります
- ・言葉かけや周囲の環境変化に対する理解、判断の認識、危険に対する認識が難しい場合があります

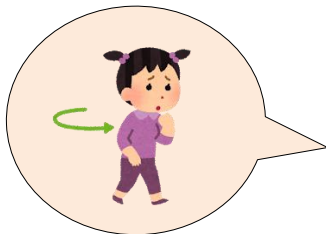


## ポイント

# 基本事項 「声をかけるときの配慮」

- わかりやすく、ゆっくりと「簡単な言葉で、具体的に」  
例：寝る場所はあっちだよ⇒「この布団で寝ようね」  
ジュースを飲む場所はあっちだよ⇒「この椅子に座って ジュースを飲もうね」  
トイレはあっちだよ⇒「ここがトイレです」
- 否定言語は使わず、出来る限り「肯定的な表現で」  
例：うるさい！⇒「静かにしようね」  
そこに入っちゃダメ！⇒「ここは入らないでね」

## ポイントを踏まえて、①～③の方に対して どんな対応が必要か考えてみよう



### ①どこが自分のスペースか、迷っているようです

- 多くの同じ布団や椅子、多くの避難者が居る状況下では、周囲の環境に関する状況を整理しきれないこともあります。
- ご本人が使用する場所、物を分かりやすくするため、「床にテープを張る」「パーテーションで仕切る」「使用するものに目印（色、絵など）をつける」ことで、出来る限り情報を整理しやすくすることも出来ます。

### ②避難所でのルールがよく分からないようです

- 全体への指示や誘導（張り紙を含む）では、基本的な生活ルール（就寝時間、食事の時間、ゴミの出し方など）が理解しきれない場合もあります。また、館内放送を聞き取れない、もしくは内容を理解しきれない場合もあります。
- 言葉よりも文字、絵、写真、実物の方が理解しやすい場合もあります。避難所でのルールを伝達するときは、個別に伝えることも有効です。



### ③トイレの場所がよく分からないようです

- 慣れない場所や初めての場所は、誰もが不安に感じるものです。障がいのある方は、自分が行きたい場所がどこか、聞くことや伝えることが出来ないこともあります。特に災害時、トイレは避難所建物外に設置されることもあり、その分、サポートする私達も伝えなければならない情報（言葉）が増えてきます。
- トイレを初めて利用する場合は、トイレまで案内（誘導）するだけでなく、使い方も伝達すると、次からはご自身が行きたいときに、一人で行くことも出来ます。



### **チェック** 文字、絵、実物をどのように使えばいい？

- コミュニケーションが苦手な部分をサポートする手立てとして、言葉に代わる意思疎通を行う方法です。詳しくは6ページと一緒に考えてみましょう

## 知的障がいのある方のサポート③ 「コミュニケーションボードの活用」について

自閉症の方などは、耳から入る情報よりも目から入る情報の方が理解しやすいことがあります。また、自分の意思を伝える時、文字や言葉で伝えることが難しくても、視覚情報（絵など）を指差しする事で、意思を伝えることも出来ます

例) 次の予定を伝える「支援カード」（佐野あゆみの里使用の一部）



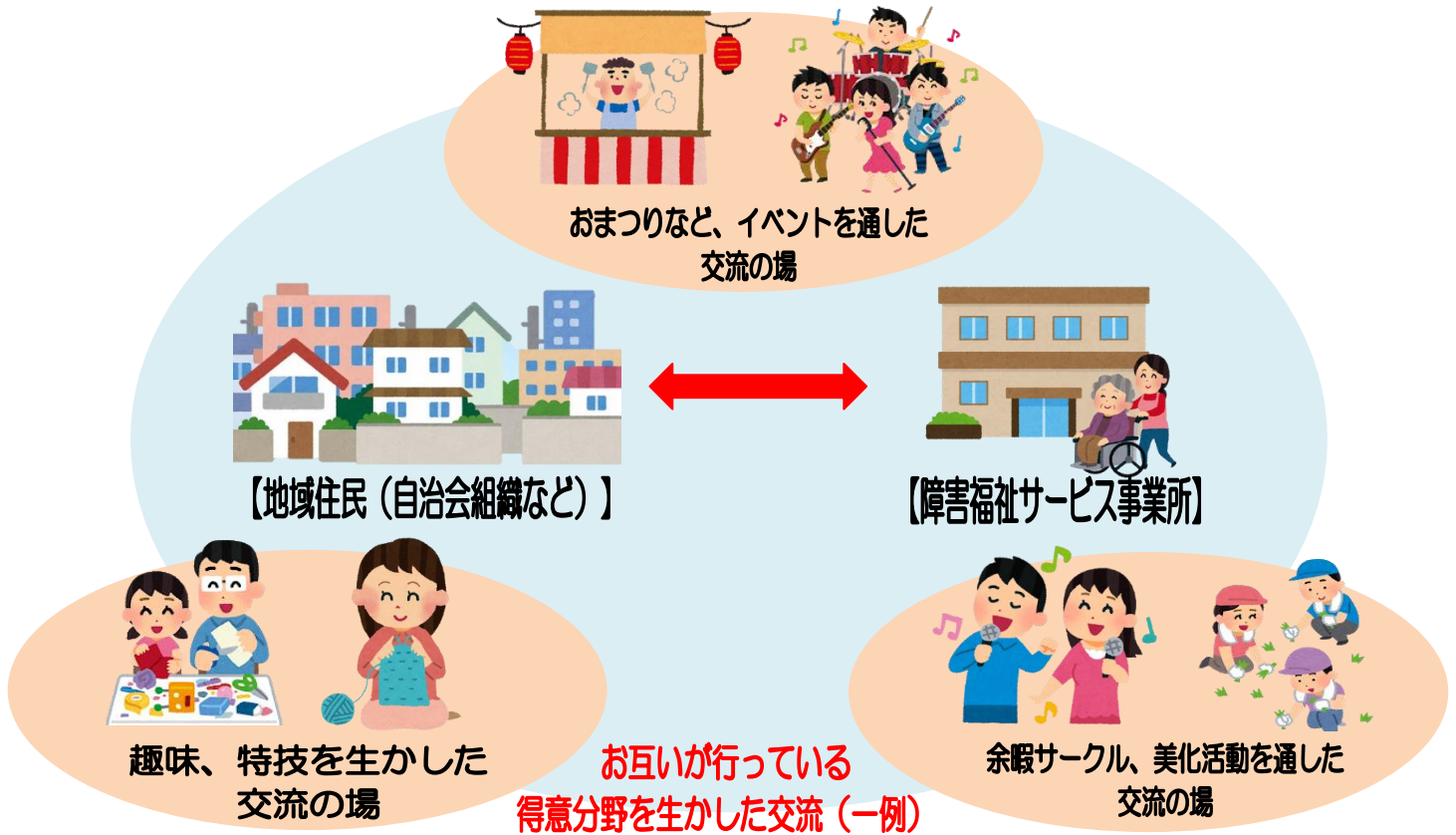
- ・上記は、職員が利用者さんに予定を伝える時に使用しているカードの一例です。こうした絵カードを表にまとめると、避難所でのスケジュール表にも活用出来ます
- ・全国ではこうしたカードを含め、様々なコミュニケーションボードが作成されています

### **チェック**✓ 近くにご家族、知人が居る場合は・・・

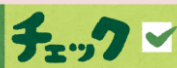
・避難所内に、ご家族や知人が居る場合は、サポートの方法を聞いてみましょう。情報を聞くことで、よりご本人に合った視覚支援の方法が見つかるかもしれません。近くに居ない場合は、連絡先が分かれば聞いてみることも一つの方法です

## 知的障がいのある方のサポート④ 「障がいの特徴を知る ～平時から出来ること～」

私達が暮らす街には、知的障がいのある方が通っている「障害福祉サービス事業所」があります。日頃から地域住民と事業所同士、お互いの特徴を生かした交流を行ってみると、ここまで学んだ「障がいの特徴」の理解を深めることにも繋がります



- ・新しい活動をいちから組み立てるのは、時間的な制約、労力、費用なども考えると、すぐには出来ないことが多くあります
- ・日頃から行っている活動の範囲内で交流出来ることがあれば、お互いに無理のない範囲で交流をスタート出来るかもしれません



### 知的障がいのある方だけでなく・・・

- ・身近な地域には、知的障がいのある方だけでなく、身体障がい、精神障がいのある方が通う事業所もあります
- ・交流を行うことで、知識として知っていた障がい全般の「基本的な特徴」を、より具体的にイメージ出来ることにも繋がります
- ・次ページ以降、身体障がい、精神障がいのある方に対するサポートが記載されていますが、「日頃から、自分はどんな交流が持てるか」イメージしながら読み進めてみてください